



【9月4日】



縄文の塩作り
縄文村一、過酷ながら大人気イベントの「塩作り」。6月に作った製塩土器で海水を煮詰め、塩作りに挑戦しました。今年は直前までの長雨の影響か、湿度が高く火を焚くのに一苦労。毎年暑さとの戦いですが、気温も低くなく海水の温度も上がりません。やっと出来た塩は例年よりも少なめ……。真夏の暑い中、縄文人が塩作りをしていた理由に、納得の皆さんでした。

秋の縄文村を楽しむ。

縄文の釣り

「縄文の釣り針での釣果は4年に一度」。そんな法則があるイベント、昨年アナゴが釣れましたが、今年はいかに？ 出航から1時間後。諦めムードの中、一艘の船から「釣れたあー」と歓喜の声が！ 縄文村史上初の、2年連続の記録となりました。釣れた魚は約20cmのイシモチ。驚くべきは、針の大きさ。硬い鹿の角を、砥石と石器のみで作ったとは思えないほど小さいのです。加工技術が縄文人に近づいているのかも？



【9月11日】



【9月25日】



縄文教室
土器作り・野焼きと体験してきた「縄文教室」。最後は「縄文料理」です。コロナ対策のため、全体での調理は中止し、家族ごとに「朴葉の蒸し焼き」を作っていました。シカ・イノシシ・カモ肉を石器で切り縄文の塩と山椒の葉をまぶします。朴葉に包んだら、焼いた石の上に置き蒸し焼きに。出来上がったお肉は、スタッフ特製の縄文鍋やクッキーとともにいただきます！「どれも美味しい！」「獣の肉は初めて！」と縄文の味を十分に堪能していました。



文化財講演会『王権と牡鹿郡』



9月10日、東松島市コミュニティセンターで、東松島文化財講演会『王権と牡鹿郡―赤井官衙は、なぜ史跡指定されたのか―』を開催し、市内の方を中心に約150名が聴講しました。
講師に、文化庁主任文化財調査官の近江秀氏を講師にお招きし、赤井官衙遺跡群をめぐる歴史的背景と意義、遺跡の価値をご講演いただきました。
赤井官衙遺跡群は、約1300年前の陸奥国牡鹿郡

（現在の石巻地方）の役所「牡鹿郡家」あるいは、蝦夷討伐のための城柵「牡鹿柵」と考えられる赤井官衙遺跡と、その官人らのお墓「矢本横穴」からなる遺跡群で、令和3年3月に国史跡に指定されました。
講演は、赤井官衙成立以前の石巻地方の歴史から解説。遺跡調査から、古墳時代以前から海路を利用した関東地方との交流があったことが説明されると、会場は興味深く聞き入っていました。
赤井官衙遺跡群からも、関東の特色がある土器が出土したり、地元・蝦夷・関東それぞれの特徴がみられる人骨が出土するなど地元民と関東移民、北方の人々との融和的な関係があった時代があることが説明されました。
近江氏は「赤井官衙遺跡群は、王権の力が東北にどのように及んでいたのか、蝦夷との関わりの変化がわかる遺跡。市の宝として多くの人に知っていただきたい」と語りました。

アンケートより

講演会後のアンケートでは、たくさんのご感想と、赤井官衙遺跡群の活用についてご意見をいただきました。

- ・新しい考古学上の発見により、従来の古代東北史、征夷の歴史が変わりつつあるの分かりました。今後の発掘に期待します。
- ・地元にもこのような誇れる史跡があることはたいへん素晴らしいことだと思います。まだまだ知名度が低いように感じますので、市だけでなく、県やその他の媒体も含めて広めてほしいと思います。
- ・赤井遺跡は王権拡大の前線かと思っていたが、実は北方蝦夷とは融和的な交流を基としていた点、とても興味深く聞きました。
- ・現地での、史跡の展示公開を進めていただきたい。
- ・両遺跡ともより分かりやすい案内板（遺跡範囲などがわかる）などがあれば良いのではないかと思います。

30周年記念企画展

「学史を飾る松島湾の三大貝塚 - 大木囲・西ノ浜・里浜 -」

10.23(日) - 12.25(日)

松島湾沿岸は日本有数の貝塚密集地帯。中でも大木囲・西ノ浜・里浜の3つの史跡は古くから注目され、調査研究がおこなわれてきました。東北を代表するこれらの貝塚を中心に、松島湾沿岸の貝塚に迫ります。

協力：七ヶ浜町教育委員会、松島町教育委員会、東北大学文学部考古学研究室

11月3日文化の日は、
縄文村入館無料DAYです！

開催中の企画展もお見逃しなく！

